



集落みんなで対策

集落防護柵のメンテナンス

どんなに丈夫な柵でも、時間がたてばどこかにほころびや穴ができてイノシシに侵入されてしまうので、定期的な点検や補修が欠かせません。見回り当番を決めて特定の人に負担がかからないようにすることや補修のための積立をするなど、柵の点検や補修がうまく続けられるように、みんなで話し合しましょう。



エサ場として魅力のない集落づくり

集落内のイノシシのエサを減らしたり、無意識の餌づけをなくしたりするには、集落全体での取り組みが効果的です。林縁の見通しをよくしたり、集落内のやぶを刈り払うなど、イノシシにとって魅力のない集落づくりを進めましょう。



適切な捕獲 狩猟と有害捕獲による捕獲

イノシシは比較的狭い範囲を移動するので、継続的に被害が発生する場合は、その場所に現れる個体を捕獲することが有効な被害対策になります。ただし、捕獲だけで被害をなくすことはむずかしいので、集落環境整備や防護柵による対策もあわせて実施しましょう。

野生動物を捕獲する場合は、狩猟免許が必要であり、狩猟期間外は有害捕獲の許可が必要です。狩猟免許の取得についてはお近くの農林(水産)振興事務所に、また有害捕獲許可についてはお住まいの市町の担当者にお尋ねください。



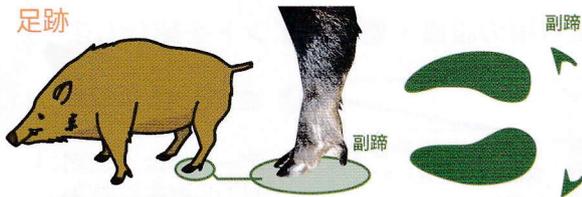
被害農地付近の山に設置された箱ワナ



痕跡確認

効果的な被害対策や捕獲を行うためには、どの動物に荒らされているのかを知る必要があります。

足跡



ひづめのうしろに副蹄の跡が残ります。ただし、地面の状態によっては、跡がつかないことがあるので注意が必要です。

掘り起こし



田畑を掘り起こした跡があれば、イノシシのしわざです。

糞



だんご状の糞をします。

